

(別記)

新城市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、平たん部から標高500m超の中山間地域であり、水稻を中心に作付けが行われている。降水量も多く麦・大豆などの作付けが難しい状況である。

また、畜産農家が多く飼料作物・WCS用稲の需要が高いことから、新規需要米（WCS・飼料用米等）・飼料作物の作付けの推進を行っている。

高齢化のため農家戸数の減少による不作付け農地の増加、鳥獣害被害での生産収量の低下が進んでいる。こうした中、水田作付面積の維持が現状の課題となっている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

各地域にあった売れる米づくりの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意見を勘案しつつ米生産を継続的に行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中で、産地戦略枠を活用し、飼料用米をWCS用稲に次ぐ転作作物と位置付けるが、飼料用米の拡大にあたってはライスセンターでの対応を考慮してコンタミ防止のために主食用品種にて対応する。

イ WCS用稲

WCS用稲については、産地戦略枠を活用し、生産性向上・品質向上の取組を推進し畜産農家の要望に即し計画的に生産していく。

ウ 加工用米

産地戦略枠を活用し、現状の加工用米とさらに今年度よりもち米での加工用米への取組を新たに行い、計画的な生産を行う。

(3) 麦、大豆、飼料作物

基幹作物及び二毛作での飼料作物の作付けを継続的に行い、需要のある畜産農家と計画的に連携を図っていく。

(4) 不作付地の解消

不作付地は、鳥獣害が多発するので、従来どおり緩衝地帯とする一方、鳥獣対策を強化する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	883.56	900.00	900.00
飼料用米	25.32	23.00	23.00
米粉用米	0	0	0
WCS 用稲	62.06	65.00	65.00
加工用米	14.00	20.00	20.00
備蓄米	0	0	0
麦	1.06	1.60	1.60
大豆	1.35	1.00	1.00
飼料作物	128.31	130.00	130.00
そば	0.10	0.10	0.10
なたね	0	0	0
その他地域振興作物			
野菜			
.			

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	飼料用米・ WCS 用稲	面的集積	イ	実施面積	87	88
2	WCS 用稲	生産性品質向上の 取組を行う	イ	実施面積	62	65
3	加工用米	生産性品質向上 の取組を行う	イ	実施面積	19	19
4	耕畜連携	耕畜連携の堆肥散 布の取組	ア	実施面積	40	40
5	二毛作	二毛作での取組	ア	実施面積	40	40

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり